新宿連絡会NEWS

2012.2.20

VOL. 59

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議 〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10 関ビル106号 NPO新宿気付 TEL.090-3818-3450 FAX.03-5273-6895 http://www.tokyohomeless.com

耳又後にはなりそうもないな ~ 第18次越年越冬雑感

笠井和明

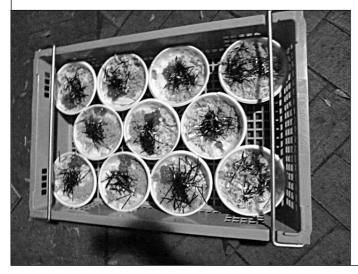
背中をちょっと押すだけの支援が、支援される側 も、また支援する側も精神的苦痛が少ない最善の方 法だと、かつてより考えていた。

どこの世界でもクライアントとの「距離感」が議論される事があるが、この業界でも、この「距離感」と云うものはとても大事で、背中を押すつもりが、ついつい、抱きついて囲い込んでしまったり、反対に押し過ぎて突き放して転ばせてしまったりと、その「物差し」は経験でしか得られないようである。

主客の転倒と云うものもある。丹下段平が矢吹丈のつもりになってしまったり、かつて「代理糾弾」なんて言葉があったが、当事者でもないのに、当事者になったつもりの、勘違いな人々もまた多い。

山谷の先輩に聞いたサッカーの譬えと云うのも、 あちこちで良く使うが、名アシストになるつもりが、 自分でゴールを狙ってしまうなんて云うのも勘違い が成せる業である。

人が人を支えると云う事は、この世の中で最も大事な事なのだろうが、せっかく何らかの制度にした



としても、それですべてを支える事はとうてい叶 わず、その隙間をボランティアとかNPOとかが埋 めるのがせいぜいな事で、それもまたいつの間に か上下関係となってしまう。

台東区で「ひとさじの会」を主宰されているお坊さんでもある吉水岳彦さんのインタビュー記事をふと読む機会があったが、彼は、『実際、パトロールに回っても「誰かを救う」なんてことは一度もありません。ただ「何もできないんだなぁ」と痛感させられることばかりです。』(「坊主めぐり」と云うHPの杉本恭子氏のルポから)と宗教家らしく自然体で答えている。

まさにその通りで、我々も同じような無力感に 苛まれ続けて来た。丈がリングの上で倒れても段 平は叫ぶ事しかできない無力な人間である。ゴー ル前にせっかくボールを転がしても、タイミング が合わなければ敵ボールになるだけである。こう 云う虚しさしか我々は共有し得ない。

人が人を支える時の、何をすべきかは、何をされたいのかの裏返しである。理解をしなければ、押しつけや、おせっかいにしかならない。他者に責任をもった押しつけならば時間と共に関係は修復可能の場合もあるが、無責任な制度への押しつけなどは、鋳型にはまれと無理強いしているのと同じで、無闇に自尊心を傷つけてしまえば、とりかえしのつかない関係ともなる。ただ、虚しく見守るしかないと云うのも実は正しい支援の仕方でもある。

最近、原発関連の求人情報が、ついにと言おうか、いよいよと言おうか、舞い込むようになった。 行けとも、行くなとも言えず、「それは、あなたが



決める事よ」と家政婦のミタさんのように突き放す 事も出来ず、煩悶をしている。

これがハローワークなら、後の後遺症等の事案は 労使の問題であるから紹介所は関係ないと言い切れ るのであろうが、そんなに無責任にも、もちろんな れない。

命を張る現場に採用される条件下におっちゃん達はある。40歳以上、単身者、親類親族とも疎遠。ほとんどの仲間は政治とは無関係。ピンははねられるだろうが、それはどこの現場でも同じ、報酬はそこそこある。それを元手にもしかしたらやり直せるかも知れない。職業に貴賤なし。事実多くの労働者が現場に入り込んでいる。親原発、反原発のどちらの立場でも現場作業の必要性は感じている(労働安全の観点から全ての作業を中止しろと言っている労働関係者などいないのかしら?)。俺らを利用していると批判は可能であろうが、実際作業をするのはそう云う外野の支援者ではない。

この種の労働に納得して赴く仲間を目の前にすれば、「お国のため、自分のために頑張ってこい」としか言えないのだろう。未来を見ない人々は多いし、多くの未来を持っている人々も少ない。

原発を推進するか、廃炉にするかは、最終的には 政治の判断であり、その過程で様々な議論があって も良い。しかしながら現実にそこに人が入り作業を しなければならない仕事(過去に例がない以上、健 康被害に関しては人体実験ともなりかねない仕事) があった場合、どう判断したら良いのか?騙された 訳ではなく、納得して作業をしている労働者の自尊 心は誰が守るのであろうか?就労支援の場では未だ 答えは出ていない。

話はいろいろと脱線するのであるが、社会的弱者 と呼ばれている路上のおっちゃん等にも、愛もあり ます、欲もあります、そして、自分を支えている 「何か」もあるのである。それを飛び越して政治やら制度やらの議論ばかししているから我々の思いが伝わらないのである。弱いものを固定化させ、弱いものが強くならないよう規制をかけ、そこを通り抜け、強くなったら叩きのめす。

嗚呼、嗚呼…。

越年の話であった。

何も出来ない我々は、それでも我々の経験だけを 頼りに今年も路上に、より迫れたのであろうか?

その答えもまた確としたものは出ていないが、例 年並みの活動はして来たつもりではある。

東京都の適当な概数調査で大幅に減り続けている 路上生活者は実はどこにいるのか?いったいどれく らいの仲間が新宿近辺にいるのか?越年と云うの は、炊出しばかりをやっているのではなく、実はそ んな裏のテーマもあり、こんな行事がなければ一緒 に野宿することも出来ない哀れな支援者が、こっそ りとおっちゃん達の実の生活を垣間見る機会の提供 でもある。

「24時間」と云う時間の単位を何故か昨年あたりから意識をし始めていた。時間と共に街は変わる。そこに住んでいなければ見えない景色と云うものがそこにある。それを共有しない限り、この支援に終わりは見えないのではないかと強く思うようにもなった。とは云え、一人で24時間を毎日見続ける事は難しい。分担と云う事もまた必要になってくる。それが簡単に出来てしまのが越年の醍醐味でもある。

炊出しの平均値が昼で315名、夜で304名。新 宿区周辺の概数調査では最下限の値で474名(詳 しくはパトロール班報告などを参照のこと)。感覚 的に「そんなには減ってはいないな」が数値化され るとこうなった。昨年一年どう増えて、どう減った となると、そこまでの詳細なデーターは持ち合せて いないし、学者程ヒマではないので未調査のままで はあるが、都内の全体数がたとえ減っていたとして も、新宿はいつもの新宿であり続けた事は事実のよ うである。明らかに昨年と違うのは寝床の分布で、 かつて寝ていたような地点(街道沿いであるとか、 小公園であるとか)にはおらず、新宿駅であるとか、 集住地集中型になりつつあり、しかもその全貌が明 らかになるのは終電後の深夜の時間帯であった。つ まりは、普段は人ごみにまぎれており、通常の役所 の時間帯ではとうてい見分けも、捕捉も困難である と云う事である。

お役所仕事では対処できない時間帯にしか可視化 できない問題にはどう対応すべきなのであろうか? 昼間の問題だけが都市問題なのであろうか?そんな 怠けた発想を、眠らない街の夜の新宿は見事にあざ 笑っている。

何も新宿の越年の取り組みがそれを引き起こした 訳でもないようである。越年後も同じような数の推 移を記録されており、恐らくこの数年の間にじょじ ょに変貌を遂げたものと思われる。

特定公園を対象にした「地域生活移行支援事業」が終了し、次は流動層、移動層の対策であると散々言って来たのであるが、残念ながら「走りながら考える」東京都福祉保健局の伝統はその地点で走る事を止めてしまった。そして今は考えてもいない。

それがこう云う実態として現れている。「大半の 善良な都民が知らないし、眠っているのだから、目 をつむっておきましょう。」か?

国もまた、「ホームレス自立支援法」も10年目となるのだから、それを貫徹しようと云う覚悟も姿勢もなく、テントが一杯だった頃と同じ対策にお金をつけているだけ。

まあ、もっと文句もつかたいのだが、紙面もないので、これくらいにしておく。

かつては自立支援センターのリピーター問題と云 うのがあって、就職活動と云うのは時の運だからと 慰めあっていたものであるが、今回あたりからは、 生活保護を廃止されたのだか、廃止したのだか、こ ちらの制度からのリタイヤ組も多く見えた。とある 福祉事務所で保護申請したら、他の区の宿泊所に飛 ばされ、見捨てられてしまったような気がして、今 度は自分で飛び出してしまったなんて云う仲間もい た。いやいや、こちらの制度で生きていくのもなか なか難しいものである。おうおうにして、制度を理 解しないで「つながった」と云う仲間が多く、それ が、滞留したり、トンコしたりと「その他世帯」が 抱えるボタンの掛け違いなのかなと思ったりもす る。

だからシェルターが必要なのだと、口酸っぱく言って、役所が作らないから、自分等で作ってしまえとNPO部門に「馬場ハウス」を開設させたのだが、こちらは年末年始は医療テントから続々と人が入り、一時休息と静養のためにおおいに役に立った。理解しているのなら制度に体当たりをしていけば良いのであるが、なかなか難しい制度を理解するには多少の時間がかかる。そりゃ野宿していれば「どこでも良いわ」となるのが人の常。しかし、その段階で焦って支援する側の都合で制度を押し付けてしまうと、その後が大変なのである。理解する時間、納得する時間、そして野宿ではない安全な場所が、ま

ずは必要なのである。こんな事は何も我々が言い出したのではなく、東京都がステップアップ方式を編み出したと云うのに、長い年月の末にもう忘れてしまっている。

いずれにせよ、新宿駅に象徴される駅ターミナル など集住地域の課題は実感として確認が出来た。だ から、ちょっとは路上に迫れたのかも知れないし、路上の果ての姿が少しは見えて来たような感じもす る。これが成果かどうかは、これからの我々の活動 如何となる。

このように、本家本元の新宿では、まだまだこの問題は解決しておらず、変貌を遂げているのであるから、「ホームレス自立支援法」(10年の時限立法で今年の8月が期限切れ)はごくごく自然に延長すべきであろう。

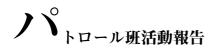
背中をちょっと押すだけの支援を作るためにこの 法律はあり、少なくとも自立支援センターにはまだ まだ活躍してもらわなければ困るのである。そして、 だらだら延長を重ねる事なく、自立支援センター機 能をもっと重点的に、もっと柔軟にしていく事と、 その入り口をシェルターと連動させ、駅ターミナル 24時間体制とするならば、今日的な路上の動向に もちっとは対応可能となる筈である。

そう云う環境があって始めて、支援する側、される側の苦悩は多少なりとも和らぐのだと思う。「背中をちょっと押すだけの支援」「後腐れのない支援」、 みんな大人なのだから、いつまでも伴走などされたくもない。

強くなるには、強くなれる環境と関係が必要である。

最後に、このような連絡会を支え、越年を支えて くれた全ての人々に感謝!





越年のパトロールは、新宿周辺のいつものコースに池袋・渋谷などを加え、都西部の把握に努めた。特に年内の活動に重きを置いた。参加者の顔ぶれが日ごとに異なり戸惑ったが、広域コースは予定通り終えた。慣れない土地のため、少数で機敏に回ることを旨とした。越年の取り組みを知らせるのはもちろん、1~2月の厳冬期に向け足がかりとする意味があった。何人かから「中央公園の炊き出しに行ってきた」の声がかかり、改めて接点に気づかされた。

先の越年と比べ、通常コースでは高田馬場の変化が目につく。戸山公園の建物が修理中で、使いづらかったことによる。例年、周囲に60人前後が寝泊まりするが、今回は約15人にとどまった。その差が平均や計に表われた。ほかの区域は、ほぼ前回並みであった。

広域については、中野・神宮外苑・江戸川橋は越年のたびに深夜に調べた記録が残っている。それと突き合わせて、大きな違いはみられなかった。池袋・渋谷は複合的で判断に迷う。数字はあくまで参考だが、人の集まる箇所に乏

しく点在している。新宿より分散が進んでいる かもしれない。

個々の局面では、体調がひどく悪かったり、 救急車を呼んだりという例はなかった。新しい 人もさほど認められず、むしろ年明けから増え る印象にある。久しぶりの出会いとしては、一 昨年のパトロールでしげく話し、施設に入った 男性が中央公園を訪れた。ふっくらとし、色つ やがよくなっていた。一方、現在つき合いのあ る数人には医療相談会や福祉事務所の利用を勧 めたがかなわなかった。濃淡はあるものの、雰 囲気はおおむね落ち着いていた。

11年3月の地震は東京にも影響を及ぼした。未曾有や想定外とはもういえない。さしあたり、「そこにいること」「待機していること」の効果(中井久夫『災害がほんとうに襲った時』)を心に留め、常の活動を続けていきたい。

路上の仲間にも人とのかかわりがある。願わくは、いざという時にそれこそが力となること を。そうした可能性を感じながら、今年も新宿 の街を歩きます。

越年パトロール記録

日付	時間	通常コース *1						広域コース *2						
		東	西	北	央	高	4	地	計	野	神	池	渋	江
	16:00~					44								
12/28(水)	20:00~	43							1 /	9	35			
	23:00~						34	69] /					
12/29(木)	21:00~			24	109							56	71	
12/30(金)	20:00~		22			47] /					24
	23:00~						40	62] /					
1/1(日)	21:00~	42			124] /					
1/2(月)	20:00~		41	26		45] /					
1/2(月)	23:00~						39	65]/					
1/3(火)	21:00~	51	37						/					
平	均	46	34	25	117	46	38	66	372					
昨年度平均		61	29	35	125	88	34	49	421					
一昨年	度平均	51	51	26	148	108	60	79	523					

- *1 東/西/北/央/高/4/地=新宿駅東口/西口/北/中央公園/高田馬場/4号街路/地下広場
- *2 野/神/池/渋/江=中野/神宮外苑/池袋/渋谷/江戸川橋 (単位=人)

2011-12 越年期 新宿連絡会集中活動·医療班報告書

新宿連絡会医療班 大脇甲哉、稲葉剛

今越年でも、新宿連絡会医療班は新宿中央公園「水の広場」に医療テント(約12畳)を設置し、 具合の悪い方への医療相談活動(24時間態勢)、重症者の一時保護などを行いました。炊き出しに集 まる人の数は例年より少なかったにもかかわらず、年末に医療機関を退院したり、福祉施設を退所し て、そのまま野宿になった方が衰弱した状態で保護されるなど、医療テントは例年以上の忙しさでし た。

以下に一週間の活動の記録を掲載します。年明け以降も、医療班は毎月の定例相談を中心に相談活動を継続しています。

活動期間: 2011年12月29日から2012年1月4日まで7日間

活動場所:新宿中央公園水の広場(12月29日-1月4日)及び戸山公園(1月3日)

活動内容:医療テントを設置、医療職ボランティアによる昼夜2交代・24時間対応 血圧測定、創処置、医療・歯科相談、市販薬提供、衰弱・要介護者保護、福祉生活相談 集中医療相談・鍼灸あんま相談(12/30、1/3)、生保申請手続き付添(福祉行動1/4) 生活自立し介護・処置不要な人は、NPO新宿シェルターに緊急一時宿泊(1/4まで)

ボランティア 39 名: 医師 12、歯科医師 1、看護師 11、薬剤師 1、鍼灸師 8、一般 6

<医療テント活動> ()内は 10-11 越年期の数

医療相談記録作成者数 40(41) 男性 38(39) 女性 1(2)

平均年齡: 58.2 歳(52.3)、最低 28 歳(25)、最高 84 歳(74)

年齡分布: 20代 1(1)、30代 2(5)、40代 6(9)、50代 12(15)、60代 10(9)、70代 6(2)、80代 1(0)

20-39 歳 7.9%(15%)、40-64 歳 57.9%(71%)、65 歳以上 34.2%(15%)

医療テント宿泊保護者数 11(9) 延べ数 24(18) (人 X 日数) 男性 10、女性 1 テント保護後緊急一時宿泊者数 5(4) 延べ数 21 (人 X 日数)



Shinjuku Renrakukai News vol.59

	年齢	性別	テント保護	緊急一時宿泊	症状	対応・経過
1	84歳	男	12月29日	12/30-1/4	高血圧治療中断	福祉行動後施設入所
2	51歳	男	12月29日	12/30-1/4	糖尿病治療中断・打撲	福祉行動後一時保護延長
3	66歳	男	12月30日	12/31-1/4	高血圧・脊椎症	福祉行動後受診、一時保護延長(年金あり)
4	58歳	男	12月30日	12/31-1/4	大腿骨人工骨頭術後	福祉行動中いなくなる
5	68歳	男	12月31日	1/1-1/4	頭痛・腰痛	福祉行動後施設入所
6	58歳	男	12月29日		下痢・嘔気	1/3症状悪化、救急搬送入院「出血性胃潰瘍」
7	68歳	男	12/29-1/4		全身倦怠・悪寒	正月明けハローワークで失業保険手続き
8	49歳	男	12/31-1/4		下肢蜂窩織炎	福祉行動後入院
9	59歳	男	1/2-1/4		顔面外傷・意識障害	福祉行動後受診、施設入所
10	70歳	女	1/2-1/4		高血圧治療中断	福祉行動後受診、施設入所
11	49歳	男	1/3-1/4		四・元副・元副	福祉行動後受診、一時保護

越年期救急搬送・緊急入院:1 件「出血性胃潰瘍」(0) 越年期緊急受診:0 件(1) 相談時症状:高血圧 8、腹痛 4、感冒 4、腰痛 4、嘔吐 3、精神疾患 3、歯科疾患 3、下痢 2、皮膚炎 2

<越年活動結果 >

紹介状枚数 20(13)

越年期後医療機関受診 10(10):高血圧 4、腰痛 2、蜂窩織炎 1、意識障害 1、虫歯・歯牙欠損 1、

嘔吐 1

福祉行動後入院治療 1(3):蜂窩織炎

施設入所 10(8)

新宿以外の福祉へ 1(1)

生活保護受給者の相談 4(4)

薬のみの対応者数:391名

内服薬: 448 外用薬: 131

マスク、カイロ:300~500

対応者数は例年とほぼ同じだったが、12月30 日夜の医療相談に集中した。

風邪薬は例年の1.2倍(例年より寒かったためか)。

胃薬も 1.1 倍 (パトロール配布で認知が高まっている)。



2011/12/28~2012/1/3越年炊き出し実数表 新宿中央公園「水の広場」

月日	12月28日	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日	1月2日	1月3日
曜日	水	木	金	±	В	月	火
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
新宿昼の炊き出し実数	450	240	264	312	276	336	330
新宿夜の炊き出し実数	192	288	280	344	352	336	336
参考(池袋昼)		67	68	92	126	97	110
参考(池袋夜)		143	163	181	189	195	237

*池袋の炊出しと新宿の炊出しは昼夜共同時刻に実施のため重複はあり得ない。

池袋+新宿合計(昼)	307	332	404	402	433	440
池袋+新宿合計(夜)	431	443	525	541	531	573

特記事項

東京都の年末対策はなし。厳冬期宿泊は縮小、新宿区からはこの時期6名宿泊のみ

12/28日昼はアントニオ猪木氏による炊出し

渋谷、 中央教会などのその他の支援は例年通り

	述べ人数	平均	対前年度比
新宿昼の炊き出し実数	2,208	315	3
新宿夜の炊き出し実数	2,128	304	18
	述べ人数	平均	対前年度比
池袋+新宿合計(昼)	述べ人数 2,768	平均 426	対前年度比



新宿区及び周辺部の越年概数調査

			8(火)		計
		1:00~			
東口		28			/
	ハルク	9			
西	カリヨン	8	27		」 /∣
	バス停	3	21		_
	京王等	7			
Ī	南口	1			
4 문:	4号街路 北		70		
4 5			70		
地	下広場	98			\neg /
甲:	州街道	7			\neg /
刀	、公園	6			
	北			15	
中:	央公園			117	
高	高田馬場			46	$\exists /$
神'	神宮外苑			35	7/
ਮਾ <i>ਜ</i> ⊔	江戸川橋			6	eg
(1.77)	音羽			18 24	
	計	2	37	237	474

概数調査は1月3日の末明、主に新宿駅東・西口と地下で行った。部分的に早い時間帯の記録(平均を含む)を用いた。前2回より調査地点が少なく、考えられる幅の最下限の値を採った。実際はこれを超えるはずである。

こちらでも高田馬場の状況が結果を左右している。やはり戸山公園の工事によるもので、園自体の数が下がっていることから、50人弱が離れたと思われる。街路に紛れていると、各所で誤差の範囲に収まってしまった恐れがある。一般に減少は目立つが、どう動いたか明らかにするのは簡単でない。

人の動きがわかりやすい場合もあり、09年5月~10月がそんなふうだった。駅や公園に人が増え、押し出される形で近隣に身を横たえる姿があった。いわば自然の流れに沿うもので、どちらかといえば例外に映る。

ふだんのパトロールでも寝床に響く変化がままある。植込みや杭、柵によって人を退ける態勢が作られる。示威的な面が強い。条件に適した場所は限られ、元へ戻らざる得ない事情が伴う。

衣類、物品の寄付 ありがとうございました。 春もの衣類などは3月から募集再開です。



第18次新宿越年越冬への衣類等の寄付誠にありがとうございました。おかげさまで多くの仲間がこの 冬は防寒着、毛布類には困る事なく、また全国からの支えがある事が実感でき、感謝感激です。

今後の衣類の寄付は下着類、靴下類、Tシャツなど上着、ズボン、春秋ものの薄手の上着類を中心に4月1日より募集を再開します。また、引き続きお米、お米券、テレホンカード(使用可能なもの)、はがき、切手類なども募集をしていきます。今後とも路上の仲間がこの街で生き、そしてこの街から羽ばたくための様々なご支援を宜しくお願い致します。

不明な点はどうぞ、お電話、メール等でお気軽にお問い合わせ下さい。



ボランティア募集中!

新宿炊出し(準備・片付け) 毎週日曜 午後6時より7時半 ところ 新宿中央公園「水の広場」 医療相談会

第2日曜 午後7時より8時半 ところ 新宿中央公園「水の広場」 第2日曜 午前10時より正午 ところ 戸山公園 パトロール (夜回り)

新宿駅周辺 毎日曜 午後7時半~ 戸山公園 毎水曜 午後6時~

*お問い合わせ先

090-3818-3450 (笠井) もしくは、

メールshinjuku@tokyohomeless.com

新宿連絡会

2011年11月~2012年1月会計報告

を 越年の取組みへの寄付大変助が りました。越年期の大きな出費を 賄う事もでき、本当にありがとう ございした。

新宿連絡会はすべて民間の支援 で運営されています。集まったお 金はすべて仲間のために使い切り ます。引き続きのご協力宜しくお 願いします。

収入)		支出)	
炊出部門寄付 活動部門寄付 越年越冬部門寄付 その他寄付 前繰越金	704,033 0 1,689,678 422,420 101,450	計越池事旅通消車事支衛諸次 費費費費費費費費費費費費 數事援品通品所数理越 多支用交信両手管維繰 毛袋務費耗務払生期	395,413 0 284,341 130,000 23,100 0 265,475 22,585 30,617 690,000 17,221 798 0 58,031
合計)	2,917,581	合計) 2,5	917,581

●活動カンパ 振込は、 郵便振替□座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、http://www.giveone.net/「Give One (ギブワン)」(登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけて下さい。) からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

- ●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●
 - ★郵便物及び衣類、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号 新宿連絡会 宛て

(平日9時~5時で受取が可能です)でお願いします。